

KOEKARA / コエカラ

サービス紹介

# これからは、 コエから。

自分の声で、韓国語を話す。

日本語話者のための、発音に特化した韓国語学習。



# 「違う」とは言ってくれる。では、どう直すのか

発音の学習だけが、独学のループから外れたままになっています。

01

## 違うことは、わかる

多くのアプリが「発音が違います」と教えてくれます。判定は出ます。

02

## でも、正解が聞けない

お手本はネイティブの声です。自分の声とは高さも速さも違い、何を真似ればいいのかが残りません。

03

## だから、直し方がわからない

同じところで何度もつまずき、やがて発音の練習そのものをやめてしまいます。

「間違い」を教えるサービスはあります。「正しく発音した自分の声」を聞かせるサービスは、ほとんどありません。

# あなたの声が、韓国語を話す

短い録音から声の特徴をあずかり、その声で「正しい発音」を合成して聞かせます。

01

## 声をあずける

母語（日本語）を数文、読むだけ。

02

## 正解をつくる

あなたの声で、韓国語の正しい発音を合成します。

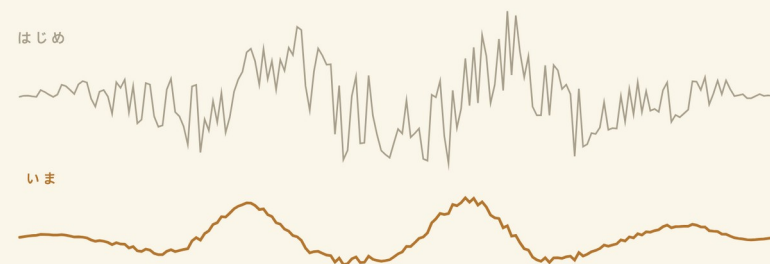
03

## 聞いて、真似る

他人の声ではなく「自分の声」なので、真似る先が具体的です。

KOEKARA

05 / 8



3か月後、違いは聞いてわかる。

「はじめ」と「いま」を、同じ文の波形で見比べられます。



01

# しくみ

声をあずかり、中身をつくり、合成し、測り、のこす。五つの層でできています。

# 五つの層

どの層も外から差し替えられますが、価値が生まれるのは L4「発音を測る」です。

L1

声をあずかる

同意を取り、短い録音から話者の特徴を取り出す

L2

学ぶ中身

文・シナリオ・ユニット・ミニマルペア

L3

声をつくる

あなたの声で、正しい韓国語の発音を合成する

L4

発音を測る

5つの軸で、どこがどう違うかを出す

L5

のこす

日ごとの記録と、もう一度いう文

**L4 が中心です。** どこがどう違うかを言えて初めて、合成した「自分の声」が練習になります。

# 発音を、五つの軸で測る

「なんとなく違う」ではなく、日本語話者がつまづく場所そのものを軸にしています。

## パッチム（終わりの音）

日本語に終子音がない。「감사」の「ロ」が「む」になる

## 子音の強さ

平音・激音・濃音の三分が日本語にない

## 母音（어 と 오）

日本語の「オ」ひとつが韓国語では二つに分かれる

## 音韻変動

つづりと読みが変わる規則（連音・鼻音化）

## 語頭の濁音化

語中で濁るが語頭では濁らない

# 判定は三つ。そして「測れなかった」

測れなかったことと、間違えたことは違います。KOEKARA はそれを混ぜません。



良好



要練習



別の音



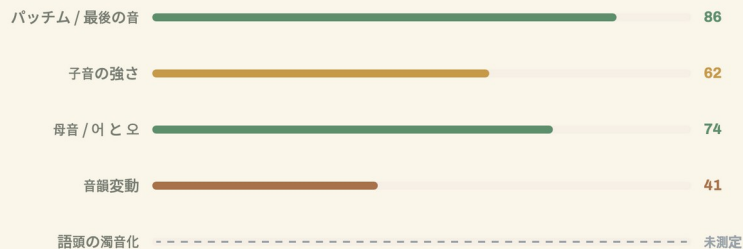
未測定

0点ではありません

KOEKARA

04 / 8

音のくせを、軸で見る。



測れた 4 / 5 ・ 未測定は 0点ではありません

## なぜここにこだわるか

マイクが遠い、周りがうるさい、短すぎる — 測れない理由は学習者のせいではありません。それを0点として記録すると、学習者は「下手になった」と読み、やめます。測れなかった回は、記録からも集計からも外します。

# 日本語話者に、特化する

誤りの型が母語ごとに違うため、汎用の採点では「どこを直すか」まで届きません。

| 日本語にないもの     | 学習者に起きること                   | 対応する軸       |
|--------------|-----------------------------|-------------|
| 終子音（パッチム）    | 「감사」の ロ が「む」になり、音節が一つ増える    | パッチム（終わりの音） |
| 平音・激音・濃音の三分  | 「가·카·까」が全部同じ音に聞こえ、同じ音で発音される | 子音の強さ       |
| 어 と 오 の区別    | どちらも「オ」になり、別の単語として伝わらない     | 母音（어 と 오 ）  |
| つづりと読みのずれ    | 書いてある通りに読んでしまい、連音・鼻音化が起きない  | 音韻変動        |
| 語頭と語中で濁りが変わる | 語頭を濁らせてしまう                  | 語頭の濁音化      |



02

# 中身と体験

相棒が話し方を変えます。判定は変えません。

# 相棒は五人。判定はひとつ

相棒が変わるのは話し方と進む速さだけ。判定の色も意味も文言も動きません。



ナギ

NAGI

やさしい、一歩目。

短いです体。一度に一つ。



トア

TOA

あなたのペースで。

丁寧な遅さ。二文に分ける。



ルモ

LUMO

大事なところだけ。

ためぐち一言。速い。



セナ

SENA

理由まで、わかる。

説明体。順に、四文まで。



リト

RITO

ことばに、リズムを。

言葉より拍。専用の拍子で。

「相棒なし」も選べます。 無彩色のUIで、診断だけ。キャラクターが苦手な学習者を、入口で失いません。

# 中身は、もう動いています

構想ではなく、配信中のコンテンツパックを数えた値です。

309

文

2,590

音源

505

単語

48

トピック

18

シナリオ

22

ユニット

27

ミニマルペア

6

読み上げの声

すべて「モバイルWeb・iOS・Android」の三つで同じ中身が出ます。

# 四つの約束

作り手の都合で曲げないと決めた四つです。画面を増やすたびに、これを守れているか測ります。

## ① 未測定を0点にしない

測れなかったことと、間違えたことは違う

## ② キャラクターは判定を変えない

相棒が変わっても、診断の色と意味は動かない

## ③ 学習ハングルは33px以上

読めない大きさで発音は練習できない

## ④ 録音中は画面を止めない

自分の声が録音に入らないよう、相棒も黙る

# なぜ日本から始めるのか

韓国語を学ぶ動機が強く、発音の壁がはっきりしている市場だからです。

**47億** USD

世界の韓国語学習市場  
(2024年)

**844億** JPY

日本のK-POP関連市場

**57万** 人

ハングル能力検定 累計志願者

**2.25億** 人

世界の韓流ファン

検定の志願者層は、発音をいちばん気にしながら、いちばん測る手段を持っていません。

# これから、コエから。

発音は、聞いてもらえないと直せません。

KOEKARA は、その「聞いてもらえる場所」を、あなた自身の声で作ります。

本資料は外部公開版です。詳細資料・実機デモをご希望の方はご連絡ください。

## KOEKARA

